



日頃から当店をご愛顧いただいている富山市の笠嶋千晶様から、可愛らしいガチョウのイラストが描かれた葉書が届きました。私たちのパンとお店への思いが込められたお言葉に、感動と、コロナ禍でも頑張っていく勇気をいただきました。

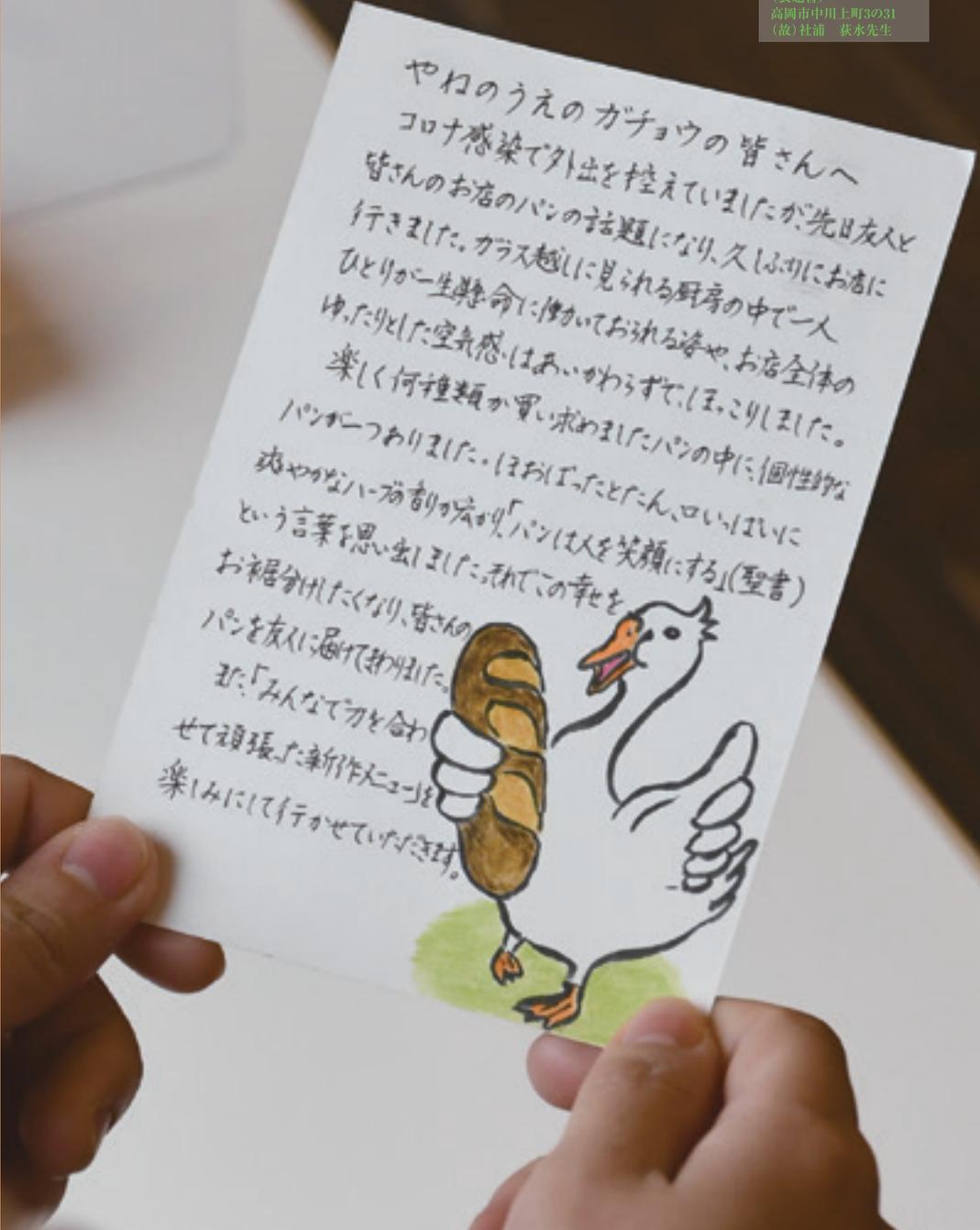
これからも、お客様の笑顔のために美味しいパンをお届けします。

(やねのうえのガチョウスタッフ一同)

婦負の野



〒930-0143
富山県富山市西金屋682番地
社会福祉法人めひの野園
TEL.076-436-0270
発行責任者 中田 匡
(表題書)
高岡市中川上町3の31
(故) 社 浦 获水先生



やねのうえのガチョウの皆さんへ
コロナ感染で外出を控えていましたが先日友人と
皆さんのお店のパンの話題になり、久しぶりにお店に
行きました。カラス越しに見られる厨房の中で一人
ひとりか一生懸命に働いておられる姿や、お店全体の
ゆたかりとした空気感にはあきかわらすで、ほこりしました。
楽しく何種類か買い求めました。パンの中に個性的な
パン一つありました。ほおびたことあん、おいしいほいに
ぬやかなハーブ割りがあって「パンは人を笑顔にする」(聖書)
という言葉思い出しました。それでこの幸せを
お裾分けしてくれり、皆さんの
パンを友人に届けてあげました。
また「みなで力を合わ
せて頑張る」新作メニューを
楽しみにして行かせていただきます。

めひの野園の今日のニュースと明るい明日を紹介します!

あしたのめひの

第18回 環境緑化・花いっぱい委員会

～環境緑化で心に潤いを～



「コロナ禍で閉塞感が増している今だからこそ、環境緑化が心の癒しになるのでは」と話す古瀬委員長

めひの野園には、職員によって編成された11の委員会があり、それぞれの課題に取り組んでいます。今回は、めひの野園周辺(城山を含む)の環境緑化に取り組んでいる「環境緑化・花いっぱい委員会」の古瀬大祐委員長に話を聞きました。

Q. 活動内容が、「城山を含む」環境緑化となっていますが、ここにはどのような意味が込められているのですか？

——めひの野園は呉羽山の麓に位置していますが、その呉羽山の南側一帯は「城山」と呼ばれ、豊かな自然を感じられる里山として親しまれています。

めひの野園がまだ無認可の時代だった1981年、その頃の城山は雑木が生い茂り、人が歩けないようなけもの道ばかりでしたが、中田園長が切り開き、遊歩道にしていたのです。

そしてめひの野園では、自閉症者の訓練の一環として山歩きを積極的に取り入



「とやまの森づくりサポーター」は県民参加の森づくりを推進しています。

れ、「城山」は、めひの野園とは切っても切れない場所になったのです。「環境緑化・花いっぱい委員会」の活動内容に、前理事長が「城山を含む」とされたのは、このような経緯があったからだと思います。また、めひの野園は富山県事業の「とやま森づくりサポーター」に加盟し、園周辺の竹林整備などの森林活動を現在も行っています。



溝掃除や除草等、園周辺の環境整備を行う「保護者ボランティア」

Q. 活動の中に「保護者ボランティア」があります。どのような活動ですか？

——「保護者ボランティア」は、職員と利用者の保護者が協力して園周辺の環境整備や除草作業等を行う活動のことで、当委員会では、それぞれの場所に人員を配置し、そこに必要な道具の準備をしています。保護者の皆さんも「我が子が働きたい環境作りを」と精力的に活動してくださるので、感謝しています。また、保護者と職員が共に汗を流しながらも話に花が咲いたり、参加者の交流の場にもなっているようです。

Q. 今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、活動が縮小されたそうですが...

——これまで「保護者ボランティア」は年に2回実施してきましたが、今年度は9月の1回のみとなりました。また、短時間で終わられるように、事前に来るだけの準備を行いました。屋外の作業ではありましたが、なるべく密は避け、マスクを着用してもらうよう呼びかけました。



ブルーベリーが熟しているか、色を確認しながら一粒ずつ丁寧に収穫する利用者さん

Q. 園周辺の土地を活用し、ブルーベリー栽培も行っていらっしゃるそうですね。

——空地の有効利用ということで、2008年から実施しています。春先に草刈りを行い、夏頃に収穫しています。「ウォーム・ワークやぶなみ」食彩部門では、利用者さんが摘み取った実をジャムに加工したり、「めひの自閉症地域生活支援センター」の相談者が収穫を楽しんだり、園での活動にも貢献できているようです。

Q 今後の課題は？

——今年度は活動が縮小してしまいましたが、今後も富山市から任されているエリアの竹林管理や、園周辺の環境整備をしっかり行い、森林活動・エコ循環型事業の活性化に寄与していきたいと思っています。

おかげでめひの野園の周辺はいつも花いっぱいですが

記：広報委員会 柴田 香菜江





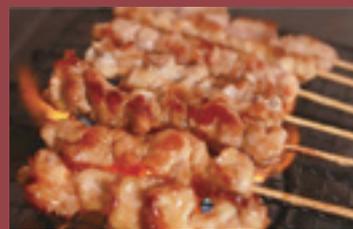
コロナ禍をよそに、例年通りに雪化粧した「飛騨流葉牧場」

2019年1月に新たな事業所として開設した「飛騨流葉牧場」が2周年を迎えました。
 昨年は、新型コロナウイルスという、未曾有の惨禍に見舞われる中、飛騨流葉牧場としては、感染症予防に努めながらも「今私たちに何が出来るのか」を考え、そして新たな挑戦にも取り組みだ一年でした。
 そんな私たちの取り組み、そして、そこから得ることが出来た「学び」をレポートします。

こんな今だからこそ！

お家で楽しもう！

飛騨地鶏



ネット販売を中心に人気高まる

一昨年、飛騨流葉牧場に「食鳥処理施設」が整備されたことで、現在は当牧場内で食鳥処理作業を行うようになりました。そこで可能になったのが、「希少部位」の商品化です。「せせり」や「ふりそで」、「ひざ軟骨」といった希少部位が、飛騨地鶏肉のラインナップに新たに加わりました。



キャンペーンでは3,200枚のチラシを配付。希少部位も加わり、美味しさの幅が広がりました

昨年5月には「飛騨市新型コロナウイルス対応販売促進事業」の補助金を活用し、「お家で飛騨地鶏キャンペーン」を開始しました。地元地域に新聞折り込みで3,200枚のチラシを配布したところ、私たちが想像していた以上の反響がありました。また、「巣ごもり需要」も追い風になり、インターネット販売での人気も高まっています。特に昨年のお歳暮シーズンには、飛騨市の「ふるさと納税」の返礼品に選ばれたこともあり、大変多くの注文を頂きました。



飛騨市の「ふるさと納税」の返礼品に選ばれました。この美味しさをぜひご家庭でもお楽しみください

10月29日には、飛騨市の古川西小学校で、飛騨地鶏をテーマとした特別授業が行われました。学校給食に「飛騨地鶏の唐揚げ」が提供され、地元の食材として子ども達にも関心を持ってもらえたのではないかと思います。今後もこのような活動

を行い、飛騨地鶏の知名度を高めていきたいと思っています。



飛騨地鶏をテーマとした特別授業の様子は、地元新聞でも取り上げられました

改めて感じた「利他の積み重ね」

コロナ禍による閉塞感や、先が見透せない不安感が拭い切れず、さらに緊急事態宣言が発令された昨年4月。以前から取引があったある横浜のレストランから連絡が入りました。「助け合いのためにも、美味しい飛騨地鶏を、これまで以上に注文させて頂けますか・・・?」と。

「私たちは、利他を積み重ねます」これは当法人の基本方針の一つです。「利他」とは、自分のことよりも他人の幸福を願うこと。こんな今だからこそ、改めて私たちは自分達だけで生きているのではなく、関係する皆様の力を借りて動いているのだと感じました。

私たちは、これからも真摯に課題に向き合い、地域と共に歩んでいきたいと思っています。

今後も「農福連携」を進め、飛騨市の活性化、共生社会の発展に寄与出来ればと思います。
 記・飛騨流葉牧場管理者 堀 宏一



手漉き和紙の 心温まるカレンダー 出来ました!



完成したカレンダーを手にする和紙班の利用者さん

牛乳パックを再利用

当園で牛乳パックを再利用した和紙作りが始まったのは1986年(昭和61年)。「毎日のおやつで利用者さんたちが飲んでいる牛乳のパックを捨てずに再利用できないか」と考えて始めました。当時のカレンダーは版画で印刷された素朴な印象。その後も年ごとに趣向を凝らしたカレンダーが製作されてきました。

毎年みしまの工房和紙班が製作している「手漉き和紙のカレンダー」の2021年版が完成しました。牛乳パックを細かく切って再利用した和紙を使ったカレンダーは、めひの野園の設立当初から作り続けられている物で、和紙班を担当する濱井主任は、「年末までに完成できるように、和紙班では一年がかりで和紙を漉いています。今年も間に合っってよかったです」と胸を撫で下ろします。



製作が始まった当時のカレンダー

利用者さんの得意なことを 活かし、作業を分担

「牛乳パックをはさみで細かく切る」、「ビニールをはがす」「ミキサーで攪拌しやすいように細かくちぎる」といった製作工程には、利用者さんの得意なことが活かされています。中には休憩時間になってもずっと牛乳パックを切り続けている方も…。カレンダーの裁断も、はさみやカッターを問わず、利用者さんが一枚一枚手でちぎり、手作り感のある仕上がりになっています。



「牛乳パックを切る」「ビニールをはがす」など、自分の得意なことを活かし、作業に励む利用者さん

カレンダーには絵画教室の利用者さんが描いた絵がデザインされており、5月はホタルイカ、8月はセミと、季節を感じられる品になっています。ぜひ一度手に取って、その風合いをお確かめください。

35年もの前のカレンダーが和紙班に残っていたことに驚き！
記・広報委員会 岡崎 秀徳



群竹 muretake

めひの野園職員
の雑感コーナー



みしまの工房主任 和紙班担当
濱井 秀之

先日、妻と一緒に黒部ダムに行ってきた。この歳にして初めての黒部ダムだった。県の助成により、富山県民は運賃が半額になるのが理由だ。この機会を逃すときつと行かない。東京生まれの人が東京タワーに上らない理屈と一緒に。このコロナ禍で初めてラッキーと思えた出来事だった。当日の新聞には、黒部ダム周辺の紅葉が大きく掲載されていた。紅葉を楽しみに出向いたのだが、10月中旬にも関わらず、弥陀ヶ原から室堂へかけては既に一面の銀世界だった。しかし黒部ダムには雪もなく、むしろ暑いくらいだった。山はツンデレだ。そこにまた惹かれてしまう。妻はダムの観光放水を期待しているが、私はこの手つかずの自然に身を置くこと自体に、たまらないワクワクを感じる。

めひの野園で働き始めた頃は利用者とともに、午前中は山歩き、午後は椎茸原木の運搬を行った。変化が嫌いな自閉症者は、土砂降りの雨だろうと、雪が腰まで積もってしようよと、日課通りに山歩きに行くのだった。私はこの呉羽の自然の中で、彼らと手をつなぎ、木漏れ日を浴びながら山歩きが出来るこの仕事を天職だと思った。ある日、山歩きの途中でふと、社会福祉の父・系賀一雄の言葉を思い出した。「この子らに世の光を」。木漏れ日を浴びている利用者を見て「これか」と思ったのだが、後から調べると「この子ら」を「世の光に」だった。「恩恵的に光を当ててやる」という意味ではなく、「自らが光り輝く存在であり、そのことを支えていく」という意味だ。

あの頃から随分と時間が経過したが、自分は成長しているのだろうか。でも、これだけは言える。静かな森の中にある太陽の光と、風と、木々の香り。そんな自然に囲まれば、心も体もきつとりセットされると。

ハーティとやまin小杉 が開催されました!

12/5・6



アルコール消毒液やガードフィルムの設置等、感染症予防対策を行い開催された「ハーティとやまin小杉」。密を避けながらも多くのお客様が来場されました

障害者の社会参加と自立を目指して

コロナ禍の影響で、様々なイベント開催についても大きな変化を余儀なくされています。県セルプ協が開催する販売イベントも自粛が続き、今回の「ハーティとやまin小杉」が今年度初めての開催になりました。

「密を避け、安心・安全なイベントを開催し、そしてより多くの方々に障害者への理解を深めていただきたい」との願いを込め、県内の障害者施設や事業所で作られた商品が並びました。

12月5日(土)、6日(日)に小杉町の「アルプラザ小杉」で「ハーティとやまin小杉」が開催されました。

外出自粛ムードの中、どれほどの来客があるだろうかという心配をよそに、会場にはマスクを着用した多くのお客様が足を運ばれ、密を避けながらも賑わいを見せていました。

「コロナ禍の影響で、商品販売の機会が減っているからなのか、今回のイベントには例年以上の施設の参加がありました」と話すのは、ハーティとやま実行委員の岩城聡支援員。「アルコール消毒液の設置や、レジに飛沫防止用のガードフィルムを設置するなど、感染症予防に関して

は入念に準備し、お客様に安心してご来場いただけるよう心掛けました」とのこと。



「コロナ禍の中、足を運んでくださったお客様にお買い物を楽しんでいただきたい」と話す岩城支援員

会場の特設コーナーには、クリスマスツリーや正月飾りといった、年末の販売イベントならではの季節商品が並びます。「ただ事業所ごとに商品を並べるだけではなく、お客様が見やすく、手に取って頂けるように」と陳列の仕方にも工夫がされています。



各事業所の趣向を凝らした季節商品が並びます

「その出来次第で、商品の売上が左右される」と言われる「POP」も年々パワーアップしています。「めひの野園のPOP名人」こと酒井いづみ職業指導員に話を聞くと、「ただ上手に作れば良いのではなく、お客様目線で作ることを心掛けている」とのこと。「パツと見ただけで商品の特長が分かるようなフレーズを考えたり、親しみを感じてもらえるように、あえてダンボールで作ったりと工夫しています」と言うだけに、商品の良さを引き出すPOPがお客様の目を引いていました。



親しみやすいPOPのおかげか、早速お客様が商品を買って行かれました

今後も「ハーティとやま」が開催されることで、障害者施設・事業所で作られている商品を、より多くの方々にお買い上げいただき、障害者の社会貢献や自立の一助になればと考えています。

今年度の「ハーティとやま」は、1月にアピア、3月に魚津サンプラザで開催予定です。

記・広報委員会 野嶽 眞希子



めひのキラリ！人

Vol.3



今回のキラリ！人
作業センターふじなみ
植菌部門
齋藤 篤さん

めひの野園では、「利用者さんの出来ること、得意なこと、好きなことを活かし、仕事につなげていく」ことをモットーに支援をしています。利用者さんの中には、自分の仕事に没頭するうちに素晴らしい技術を身に付け、いつしか「めひの職人」と呼ばれている人々がいます。そんな「キラリ！」と光る「めひの職人達」を紹介していきます！

今回の職人は、ふじなみ開設当初から椎茸生産に携わる、人呼んで・・・

めひの「ラベル職人」。

作業センターふじなみは「障害がある方でも働くことの出来る環境を作ることを」を理念として2005年4月に開設され、菌床椎茸の一貫生産に取り組んできました。

菌床椎茸とは、おがくずを固めたブロックに椎茸菌を接種し、温度管理されたハウス内での培養を経て発生させた椎茸

のことで。ふじなみでは、菌床ブロックの仕込みから、接種、培養、収穫、選別、パック詰め、出荷といった様々な工程があり、そこで働く利用者さんの、それぞれの適性に合った仕事を提供できるのが特徴です。



職員と2人ペアで、息の合った連携プレーのように進められる植菌作業

仕込み部門で作られた菌床ブロックは接種室に運ばれ、職員が椎茸菌を打ち込んでいきます。これにラベルを貼り、次々に棚に並べているのが齋藤篤さんです。一日に作られる菌床ブロックの数は約1,200個。多い時には2,000個以上にもなります。ふじなみ開設当初から15年以上この仕事に携わっている齋藤さん。その丁寧で正確な仕事ぶりで職員からの信頼も厚く、植菌部門の仕事以外にも、パックセンターでは椎茸の軸切り作業も任されています。

「齋藤さんは、無くてはならないパートナーのような存在」と話すのは、植菌部門の布澤指導員。「菌を打ち込んだブロックにラベルを貼り、棚に並べ、次のブロックを用意するという一連の作業を彼がやってくれることで、私は植菌の機械操作に集中出来るのです」とのこと。齋藤さんはもはや貴重な戦力と位置づけられているのです。



接種室のこれらの菌床ブロックは、全て齋藤さんが並べたもの

そんな齋藤さんの楽しみは、テレビで大相撲中継を観ること。取り組みの後で番付表に勝敗を記入することも楽しみの一つだそうです。お仕事を頑張っていて、いつか大相撲観戦に行けるといいですね！

頑張ってる利用者さんを見ると「自分も頑張ろう！」という気持ちになります。

記：広報委員会 室澤 尚史





お花が
いっぱいー
しいたけちゃん

しいたけくん

福祉の魅力
現場から
リアルに
レポート!!
今日は
「ウォームワーク
・やぶなみ」
「栽培・堆肥部門」に
やってきました。

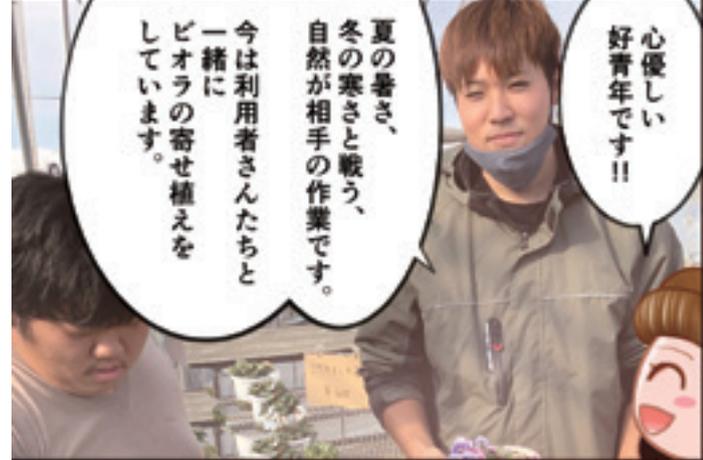
しいたけくん

こんにちはー
藤永翔太です!!

入職2年目の
藤永くんです。
身長187センチと
大柄ですが、

心優しい
好青年です!!

夏の暑さ、
冬の寒さと戦う、
自然が相手の作業です。
今は利用者さんたちと
一緒に
ビオラの寄せ植えを
しています。



身体も
大きかったので、
野球や陸上
といった
スポーツが
好きでした。
でも、いつのまにか、
「自分が活躍する」
よりも
「誰かの役に立つこと」
を、やりたく
なったんです。
「誰かの役に立つこと」
を、やりたく
なったんです。
「誰かの役に立つこと」
を、やりたく
なったんです。

それで
福祉の世界に。

福祉の大学に進学。
そのとき参加した
「地域福祉フォーラム」で、
うさか寮の
東施設長の講義を
聞いたことが、

めひの野園との
出会いです。



めひの野園は、
「園床しいたけ」
「手づくりパン」
「飛騨地鶏」。
様々な事業があり、
障害のある人が
それぞれの特性を活かす
ことができます。

利用者さんにとって
働きがいのある場だと
感じました。

作ったものが
お客さんに喜んで
いただけるのが
うれしいですね。

利用者さんと一緒に
作業をしていると、
心があたたくくなって
くるような気がします。

これからも、
「めひの野園の花苗」が
地域の皆さんに
愛されるよう、

利用者さんと
一緒に
がんばって
いきたいです
!!

いいね!!



ご寄付ありがとうございました。

(2020.8.31~2020.12.25) 敬称略

佐藤理容院	富山市
高岡第一学園	高岡市
長井悦子	富山市
池原清	射水市
沖村富美子	富山市
中田匡	富山市
田中碩子	富山市
有岡美恵子	富山市
福田政子	射水市
グループホームなでしこ保護者会	
海内孝明	富山市
川邊昇	富山市
今井哲司	富山市
山口秀了	富山市
輪島和美	富山市
竹本潔史	富山市
めひの野園保護者会	
廣田美千代	富山市
吉田礼子	富山市
富山国際大学	富山市
東京海上日動火災保険(株)	富山市

寄付金振込口座番号
北陸銀行呉羽支店 店番号120
普通預金6077230
社会福祉法人 めひの野園

後援会名簿

(2020.8.13~2020.12.5) 敬称略

山下ますゑ	南砺市
青木良成	富山市
浅井貴代美	富山市
石政明美	富山市
金川弘行	富山市
杉木良子	富山市
杉本明久	富山市
富堂聖子	富山市
中村有一	富山市
成田昭二	富山市
西孝浩	富山市
野村利美子	富山市
廣田雅俊	富山市
水口良一	富山市
山本幸夫	富山市
徳井広巳	岐阜県飛騨市
鍋島朋子	下新川郡

後援会振込口座番号
北陸銀行呉羽支店 店番号120
普通預金6077230
めひの野園後援会

来訪者

(2020.9.1~2020.11.30) 敬称略

住吉自治会	沖村 茂
売木林業(株)	坂下 正雄
北陸銀行	大島 卓也
(福)セーナー苑	荒見 信一
日本海建興(株)	山本 晋司
なのはな農協協同組合	島崎美津留
	水高 大介
	高井 辰浩
北銀リース(株)	中村 安芳
呉羽地区自治振興会	呉羽町自治会
	北森 正誠
富山市農林水産部	北野 喜彦
日本ハムマーケティング(株)	島野 鉄也
富山県富山西警察署	木下 大輔
	畑田 祐樹
北日本放送	宮腰 昌隆
(株)ミヤマサ建設	宮嶋 崇之
ソコテック	
サーティファイケーション・ジャパン(株)	
	高木 和憲
北話エンジニアリング(株)	池田 昌弘
(株)フードシステム	西田 哲夫
富山福祉短期大学	竹脇 大樹
富山市活力都市創造部	恒川 貴志
	松下 博憲
富山県火災共済協同組合	城村 賛
	長森 智昭
(株)ダイドードリンク北陸	高岡営業所
	定広 聡

編集後記

中学・高校と柔道に打ち込んでいた私ですが、思い返すと「打ち込んでいた」と言えるほど熱心だったわけではなく、畳に投げつけられた冴えない記憶がほとんどです。

中学時代のある日、部の先輩から呼び出され、「新入生に向けた部活動紹介のチラシにイラストを描いてくれないか」とお願いされました。そこで、当時の柔道少年達にとっては、バイブルのような存在だったマンガ「柔道部物語」を真似てイラストを描いたところ、評判は上々。肝心の柔道は弱いくせに、別の分野で自信を持てたことが、その後大学で美術を学ぶ最初のきっかけになりました。

学生時代に障害者支援について学んだわけではないので、めひの野園で働き始めた頃は畑違いの現場に戸惑うばかりでしたが、ある時、「絵が好きなんやったら、広報誌にマンガでも描いてみたい」と前理事長から声を掛けて頂きました。それ以来、自分の「持ち味」を活かしてもらっていると感じながら本誌の制作に携わらせてもらっています。

当園では、「POPが上手な職員」、「バイク好きが高じて、今ではホイロローダーを巧みに操り、除雪を頑張っている職員」……と自分の「持ち味」を活かしている職員が少なくありません。「持ち味」を発揮することが自信になり、仕事への意欲につながっているのではないのでしょうか。

今年はそのな、利用者さんや職員一人ひとりに備わっている「持ち味」をより多く見つける一年にしたいと思っています。

(岡崎 記)